

【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達の気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

専門アドバイザーの仕事を紹介します



訪問先の園や学校では障害の診断の有無に関係なく、授業中に話が聞けなかったり、友達とのトラブルが起こったりします。

そして、それらのトラブルが起こったときに、どのように対応するかでその後が良くも悪くもなります。

ここで、トラブルが起こったときの対応の仕方について考えてみましょう。望ましい例とあまり望ましくない例を挙げます。

最初は望ましくない例です。

ある男子2名（小3生）が休み時間にトラブルになり、3時間目が始まっても問題を解決できずに、興奮して暴言を吐いています。そこで、担任の先生は廊下に2人を出して、話を聞きます。A君は衝動性があり、トラブルを起こしやすい児童です。B君はどちらかというとそれほど他児とトラブルを起こさないタイプのお子さんです。

担任はA君とB君の双方から事実確認をしますが、2人とも言うことが異なり、相手の説明を聞きながら、「違うだろ」とお互い興奮し始めます。すると、担任は、休み時間に2人のそばにいた他児をそばに寄せて、事実確認をします。時間はどんどんかかっていき、結局は「最初に手を出したA君が悪い」という結論になりました。話し合いが終わった後もA君は納得できずにぶつぶつ言っています。

A君は満足していません。A君とB君は今回のトラブルでどんなことを学んだのでしょうか。さらに、クラスの子どもたちは待っている時間が長くて、騒がしくなっていました。

次に、望ましい例を挙げます。

数日後の専科の先生の授業です。また、同じような理由で、A君とB君がトラブルを起こしました。先生はクラス全体に、ドリル課題を与え、2人を廊下に出

します。

まず、A君から話を聞きます。その時にはB君に黙って聞いているように言います。ここでB君に口を挟まれたら、A君は興奮するからです。A君は衝動性があるので、たぶん、最初にB君から話を聞くと絶対に口をはさむことが予想されるので、A君から話を聞いているのだと思いました。A君の話に先生は「そうか。そうか」とうなずいて聞いたため、A君は満足していました。A君だけの話なら、すぐに終わります。そして、口を挟まず黙っていたB君を大げさに褒めました。

次に、B君の話を聞く番ですが、A君には「B君の番だからA君は黙っていて」と指示します。そして、B君が話している途中で、「黙っていてえらい」とA君を褒めます。

B君の話が終わった後、「自分の悪かったところはどこですか」と聞きます。もちろん、最初はB君からです。ここで、A君に聞いたら、「自分の悪かったところはない」と主張すると思います。B君が自分の悪かったことを話し、先生が褒めたので、A君も自分の悪かったほんの少しのことを話し、2人で謝って終わりです。トラブルが起きても、お互いに謝れたことをクラスの前で褒められました。

短時間で済み、2人も満足したトラブルの解決法です。

他にも工夫されていた点はたくさんありましたが、一部を紹介させていただきました。参考になれば幸いです。

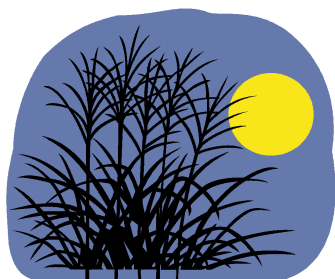
相談依頼の件数(外部支援)H30.4.1～9.31まで

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	151件	138件	39件	2件	9件	339件

(その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼)

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。

お待ちしております。



群馬県立しろがね特別支援学校
専門アドバイザー 尾岸 純子
電話 027-268-6111
FAX 027-268-6113
mail shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp

